

2013年4月3日(水)

「学校のテストで100点を取る」には、
「業者模試や入学試験、検定試験、国家試験、採用試験で合格点を取る」には

開倫塾
塾長 林 明夫

春期講習中に、効果の上がる学習方法を Q and A の形で少しずつお伝えします。

Q 1 : 「理解」→「定着」→「応用」の「学習の3段階理論」の3番目の「応用」とは何ですか。

- A : (1) まずは、うんなるほどとよくわかったこと、つまり「理解」したことを、教科書・問題集・授業中のノートを中心に「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を繰り返して行ってスミからスミまで身に付ける・「定着」させる。そして、「理解」→「定着」した内容を用いてテストでよい成績を取ること、日々の生活や活動、仕事などで役に立てること、これが「応用」だと私は考えます。
- (2) 「テストでよい成績を取る」とは何か。学校の確認テスト・単元テスト・定期テストならば、100点満点が「よい成績」だと私は考えます。
- (3) 模擬試験ならば、進学を希望する学校に合格できるだけの偏差値が「よい成績」だと私は考えます。進学を希望する学校の入学試験に合格できるだけの十分な偏差値は人によって異なりますので、入学試験に関しての「よい成績」は一人ひとり異なると私は考えます。ですから、皆様は、自分自身としての「応用力」を身に付けて「自分なりのよい成績」をお取りくださいますようお願いいたします。
- (4) 開倫塾の塾生の皆様が学力向上のために毎年受検する「英語検定」・「漢字検定」・「数学検定」・「言語力検定」の4大検定での「よい成績」とは、各検定試験の自分が受検する級に合格できるだけの成績を取ることです。これが「応用」といえます。
- (5) 司法試験や医師試験などありとあらゆる「国家試験」や仕事に就くときの「採用試験」で「よい成績」を取るとは、その試験に合格できるだけの成績を取ることです。これが「応用」といえます。

Q 2 : (1) 学校のテストでは100点を取ること、入学試験や検定試験、国家試験、採用試験では合格するのに十分な点数を取ることが「よい成績」を取ること、それを「学習の3段階理論」では「応用」というのですね。よくわかりました。

- (2) では、おたずねします。学校のテストで100点を取り、入学試験や検定試験、国家試験、採用試験で合格できるだけの十分な成績を取る、つまり「応用力」を身に付けるにはどうしたらよいでしょうか。

(3) 模擬試験で希望校に進学するのに十分な偏差値を取るための「応用力」を身に付けるにはどうしたらよいでしょうか。ぜひ教えてください。

A : 自分は、自分の力で学校のテストで 100 点を取るのだと固く「決意」すること、「自覚」をもつことです。自分の力で、受験すると決めた試験に何が何でも合格するのだと固く「決意」することです。つまり、「応用力」を身に付けて何が何でもよい成績を取る、100 点や合格できるだけの十分な成績を取るという固い「決意」を自分ですることが最も大切です。このような「決意」「自覚」をもって学習する「応用力を身に付ける学習」をスタートすることです。

Q 3 : 「応用力を身に付ける学習」とは何ですか。

A : (1) 学校の確認テスト・単元テスト・定期テストは、テスト範囲の「学校の教科書・問題集・ワークブック・教材」と「授業中のノート」をスミからスミまで一語も残さず正確に「理解」した上で、「定着のための 3 大練習」(音読練習、書き取り練習、計算・問題練習)によってスミからスミまで正確に身に付ければ、誰でも 100 点を取ることができると私は確信します。これが「応用力」です。出題範囲が示された学校のテストで 100 点が取れないのは、「理解」と「定着」が不十分であるからだとは私は考えます。ですから、学校のテストでは「スミからスミまで」の「理解」と「定着」を目指してくださいね。

(2) ただし、模擬試験や入学試験、検定試験、国家試験、採用試験など学校外の試験で「よい成績」、つまり合格できるだけの十分な点数を取るためには、「過去問」(開倫塾では、その試験で過去に出題された問題を「過去問」と呼びます)の「5 年分以上」を「5 回以上」ていねいに解くことが大事です。

Q 4 : エッ、「過去問」を「5 年分以上」、それも「5 回以上」解き直すのですか。

A : (1) 進学を希望する学校に合格できるだけの偏差値が 5 不足していたら、「過去問」を 5 回以上解き直す。10 不足していたら 10 回以上解き直すことを私はお勧めします。

(2) TOEIC という英語の試験があります。TOEIC の点数を 1 点上げたければ公式問題集のリスニングの CD を 1 回聴くこと、点数を 100 点上げたければ 100 回聴くこと、点数を 300 点上げたければ 300 回聴くことと、点数を 300 点上げた方からお聞きしたことがあります。そのくらい、同じ問題を繰り返し解き直すことは大切です。

(3) 「大学入試センター試験で十分な点数が取りたかったら、15 年分の問題を 5 回以上解く」ことは、大学を目指す受験生に私が開塾以来毎年訴えていることです。このとおりにやり遂げる塾生は少ないですが、実際にやり切った塾生は驚くほどの高得点で希望する難関大学に合格を果たしていますよ。

(4) 「過去問」を「5 年分以上」、「5 回以上」解き直す。これはありとあらゆる試験で「よい成績(合格点)」を取るときに役に立つ一生使える「学習方法」ですので、開倫塾に在籍している間にしっかりと身に付けてください。この「学習方法」が身に付けば、上級学校に進学後も、また、学校を卒業後にどのような試験を受けるときも失敗する確率が極端に減ると私は確信しています。一生涯役に立つ「学習方法」ですよ。

Q5 : 「過去問」を「5回以上」やるということは、問題集の中に解答を書き込まないほうがよいのですか。

A : (1)よい質問ですね。同じ問題を5回以上解くのですから、解答は問題の横に書き込まないほうがよいことは当然です。解答を書き込んでしまうと、問題を2回目以降解く時に予め書き込まれている解答に目がいってしまいます。「過去問」も、なぜそのような解答になるかが十分に「理解」できた問題は、問題を見た瞬間にパッパッパッと条件反射で正解が出るまで「定着のための3大練習」の3番目の「計算・問題練習」をすることが大事です。解答を書き込んでしまっただけでは、その「練習」ができません。

(2)「間違えた問題」は、科目別に「間違いノート」を作って問題と解答を書き写すことをお勧めします。長い問題文は少しまとめてもOKですが、「計算」や「短い問題文」はおっくうがらないで必ず書き写してください。「間違いノート」が、自分にとっての強力な教科書・参考書となるからです。英語でノートはノートブック (notebook) といいますが、イギリスではノートをブック (book) と呼ぶこともあります。皆様お一人お一人が「間違いノート」をブック (book)、つまり「本」にまで作り上げ、活用してくださいね。「間違いノート」の中で重要事項の「まとめ」も自分なりに必ず行ってくださいね。

(3)「まとめノート」を別な形で作り、必要なことをどんどん書き足すことも得点力伸長に直結します。

(4)さらに、成績アップのために大事なことは、「間違いノート」や「まとめノート」を何回も何十回も繰り返して「1 ページから最後のページまで」「すみからすみまで」読み直すことです。繰り返し読み直して、すべてを自分のものとして「定着」(身に付けてしまうこと)させることです。

以上